

## 大悲閣千光寺

大悲閣千光寺は保津川を望み、嵐山の北東に位置する。寺は、河原から約 200 段の石段を登った先にある。寺の入り口近くの大悲閣からは三方を山に囲まれた素晴らしい京都市内の眺めを楽しむことができる。もともとは清涼寺に隣接していたが、角倉了以（1554－1614）という商人によって現在地へ移転し再建された。角倉家は何世代にも渡って医者や金融業を営んできたが、了以は輸出業の道に進みアンナムやトンキン（現在のベトナム）との貿易で財を成した。1606 年に了以は貿易で得た莫大な富を、保津川などの天然の水路の整備に投資し、さらに運河の開削にも着手した。了以はその生涯の最後に、新たに再建された千光寺に隠居し、土木工事で命を落とした人々を祀った。

境内の本堂には本尊の千手観音菩薩があり、その隣には法衣で仕事道具を手にした了以の像がある。

境内には芭蕉（1644－1694）が詠んだ俳句を記した石碑が 2 つある。一つ目は石段の始まり部分に置かれ

花の山二町のぼれば大悲閣

と詠まれ、

二つ目の俳句は石段の途中にあり

六月や峰に雲置く嵐山

と詠まれている。